

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：浅野瞳 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 特別な配慮を要する子どもの特徴や養育者を取り巻く現状について多面的な視点から問題を解決する対応方法を考えることができる。 2. ティーチャーズトレーニングについて学び、子どもに伝わりやすい指示の出し方、褒め方について実践できる。 3. 特別な配慮を要する子どもに向けた療育支援の意図やねらいを、実践を通して表現することができる。			
【授業の概要】 本授業では、特別な配慮を要する子どもの療育支援に活用できる療育ツールを作成する。作成した療育ツールを実践的に使用するため、学外授業として施設への訪問を行う。実践を通し、学びを深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：調査・研究活動① 第3回：調査・研究活動② 第4回：中間報告・ディスカッション 第5回：調査・研究活動③ 第6回：調査・研究活動④ 第7回：学外授業① 第8回：学外授業② 第9回：評価・振り返り① 第10回：評価・振り返り② 第11回：発表準備① 第12回：発表準備② 第13回：発表準備③ 第14回：発表①		【授業時間外の学習】 ・授業前後合わせて1時間程度の予習・復習等の自主学習を要する。 ・訪問先の施設について、事前学習をし、理解を深める。 ・自分自身の特徴や課題について意識し、自己理解を深めること。	

第15回：発表②・全体のまとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 各自テーマを設定し、調査・研究を進める。プレゼンテーション、ディスカッションを行う。他者のプレゼンテーションや教員のコメント等から自らの調査・研究を深める。学外授業においては施設訪問での実践を活かし、学びを深めること。	
【テキスト】 必要に応じて授業内でプリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 参考図書は授業内で指示する。	
【学生に対する評価】 （ルーブリックを活用し、総合的に評価する。） 研究発表（50%）、授業参画度（20%）、レポート等作成（30%）。	
【履修上の注意】 ・学生自身が自己理解を深め、今後保育者として様々な子どもに関わる意識を高めること。 ・事前準備、事後のまとめを丁寧に行うこと。 ・積極的に調査・研究活動に取り組み、支援力の習得に心がけること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設職員（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：小川弥輪 担当形態：クラス分け
科目／系列	／		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者も「表現者」であることについて考え、理解することができる。 2. 様々な音楽表現を経験し、保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけることができる。 3. コンサート企画を通して、豊かな発想力とコミュニケーション能力を養うことができる。			
【授業の概要】 子どもの音楽的な表現力や豊かな創造性を育むためには、保育者自身が「表現者」となり様々な音楽表現を経験することが大切である。保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけ、子どもにとって楽しい音楽活動を展開できるような力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：教員による話題提供「『表現者』としての保育者とは」 第3回：子どもと音楽表現 研究活動① 第4回：子どもと音楽表現 研究活動② 第5回：子どもと音楽表現 研究発表 第6回：アンサンブルを楽しむ 研究活動① 第7回：アンサンブルを楽しむ 研究活動② 第8回：アンサンブルを楽しむ 研究活動③ 第9回：アンサンブルを楽しむ 研究発表 第10回：学内コンサート企画・制作 第11回：学内コンサート練習① 第12回：学内コンサート練習② 第13回：学内コンサート練習③ 第14回：学内コンサート発表 第15回：まとめと今後への課題発見 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・コンサートに向けての企画 ・コンサートに向けての練習 ・発表の振り返り ・まとめと自己課題発見	

【授業の方法】 教員から話題提供を行い、授業を展開していく。そして、学生を中心としたディスカッションにより、テーマを設定し研究を進める。研究活動や発表の中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度・音楽活動に対する練習と発表に取り組む姿勢(40%)、レポート(20%)、発表(40%)、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心をもち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの発達・成長による「活動・遊び」の計画と実践を学ぶ。 2. 保育現場の「活動・遊び」に見られる児童文化の理解を深める。 3. 代表的な児童文化財を実製作し、実演から体験的に学ぶ。			
【授業の概要】 子どもにとっての児童文化は、乳幼児教育で用いられる玩具・絵本・紙芝居・手あそび等があり、それらは保育者が子どもへ提供し、その感性を豊かに育むものである。本講座では、保育者として実際に子どもの前で実践できる児童文化財（保育教材）を企画・製作・発表しあい、子どもの前で実演できるように体系的に学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション：子どもの「活動・遊び」の概念を学ぶ 第2回：「活動・遊び」と児童文化についての理解と確認を行う 第3回：児童文化の歴史的変遷について学ぶ 第4回：乳児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第5回：乳児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第6回：各自の製作した教材の実践発表と鑑賞を行う 第7回：自身の製作した教材の省察と乳児期の児童文化の在り方をまとめる 第8回：幼児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第9回：幼児を対象とした児童文化財（教材）の計画と製作 第10回：各自の製作した教材の実践発表と鑑賞をする 第11回：自身の製作した教材の省察と幼児期の児童文化財の在り方をまとめる 第12回：伝統的な日本の児童文化の理解を深める 第13回：伝統的な日本の児童文化について学び合う		【授業時間外の学習】 1. 2. 「児童文化」と子どもの「活動・遊び」の関わりを調べる（60分） 3. 児童文化の歴史を調査（60分） 4. 5. 乳児期の発達・成長と教材研究について（60分）製作準備（30分） 6. 発表準備（60分） 7. 調査・まとめ（60分） 8. 9. 幼児期の発達・成長と教材研究について（60分）製作準備（30分） 10. 発表準備（60分） 11. 調査・まとめ（60分） 12. 発表準備（60分） 13. 14. 調査・まとめ（60分） 15. 保育者として、児童文化の今後の実践の取り組みと子どもの「活動・遊び」への展開についてまとめる（90分）	

第14回：児童文化について 教材製作研究をグループでまとめる 第15回：児童文化の理解と製作研究のまとめを発表・総括 定期試験：なし	
【授業の方法】 授業後に行う振り返りや教員からのフィードバックを行い、保育者に必要とされる児童文化に関して理解し、子どもの発達や成長に即した保育実践力を育む。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）、その他、授業で適宜紹介。	
【学生に対する評価】 授業参画度・ループリック評価（40%）、研究課題作成（30%）、発表（30%）。	
【履修上の注意】 事前学習、準備はその都度指示。手作りの教材研究から児童文化財への造詣を深め、教材の製作と実演をおこなう。製作に必要な画材・手芸セット等は必要に応じて持参。授業への取り組みは、子どもの「活動・遊び」への展開の中に教材が介在することを意識し、児童文化財としての玩具・絵本・手あそび等の意味とあり方を探求していく。授業内では、コミュニケーションを取り、活発に発言、疑問があれば適宜教員に質問し、次回に持ちこさないようにすること。	
実務経験の有無：有り	実務経験：保育所、児童発達支援事業所
【実務経験を生かした教育内容】 保育所、児童発達支援事業所での保育の経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として、子どもが現在を幸せに生活し、未来を生きる力を育てる保育の仕事に誇りを持ち、自らの人間性と専門性の向上に努め、心から愛情をもって子どもに接することができる。 2. 子ども・同僚・保育者・保護者と良好な人間関係を構築でき、チームの一員として行動できる社会性とコミュニケーション能力を身につけることができる。 3. 保育における多面的な視点から問題を解決しようとする意識を持ち、保育内容の知識や技術を保育実践を通して具体的に表現することができる。			
【授業の概要】 本授業では、ゼミナールⅠで培った経験を更に深化させ、実践的なテーマについて各自テーマについて調査・考察をする。保育者として職務の具体的内容や職業意識・保育倫理を理解し、知識・技術・実践力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション ゼミナールⅡの運営について 第2回：話題提供① 各自テーマについて考察 ゼミナールⅠで培った経験を更に深化させ、実践的なテーマについて考察する 第3回：各自テーマについて調査・研究 第4回：各自テーマについて調査・研究 第5回：研究発表・意見交換 第6回：話題提供② 行事の計画についての考察 第7回：各自テーマについて調査・研究・制作 第8回：各自テーマについて調査・研究・制作 第9回：研究発表・意見交換 第10回：話題提供③ 他のゼミとの交流 第11回：各自テーマについて考察 と交流		【授業時間外の学習】 ・毎回の授業において、単位制度の意味を理解して、事前学習と事後学習を行うこと（毎回90分程度）。 ・研究活動の多くは、授業時間外の学習や活動である。そのため日頃から研究し、計画的に取り組むこと（予習、復習に1時間程度の時間）。 ・保育者になった時のことを意識しながら、教材研究を行い、アイデアを集めておく。 ・保育者としての準備や制作などを進める。	

第12回：各自テーマについて調査・研究・制作・発表準備 第13回：授業内発表会の制作と発表準備・打ち合わせ 第14回：授業内発表会 第15回：まとめと今後の課題の明確化 定期試験：なし		・授業内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においてはゼミナール内で、模擬演習をしておく（1時間程度）。
【授業の方法】 保育者として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、多面的な視点から考え、グループ討論や成果発表等を交え、研究活動を進める。教員からの話題提供やフィールドワークをもとに調査・研究を行い、実践力を高める。研究過程において改善点を伝え、成果発表後に実践力向上に繋がるフィードバックを行う。		
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。		
【参考書・参考資料等】 各自必要な本や資料、材料について案内する。		
【学生に対する評価】 ルーブリック評価・研究に取り組む参画度（30％）、制作物（30％）、成果発表（40％）を総合的に評価する。		
【履修上の注意】 研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。		
実務経験の有無：有		実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容を行うことで保育者として必要となる力を身に付けられること見据えた授業を行う。		

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金子智栄子 担当形態：クラス分け
科目／系列	／		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 乳幼児をもつ養育者の心情を学び、支援の必要性を理解する。 2. 乳幼児対応や相談支援の基本となる好ましい雰囲気や感受性に気づく。 3. アクティブ・ラーニングにより課題を追求していくことで、保育者として豊かな感受性を培い、被支援者に対してどのように接したらより良い印象を与えることができるかを理解する。			
【授業の概要】 舞踊による感受性トレーニングを通して、乳幼児対応や保護者支援の基礎となる良好な雰囲気を身につけ、相談支援においても感受性豊かな親身な関りができるようにする。ゼミナールⅠで設定した研究テーマに沿って探求することで、成果をまとめて発表する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 授業計画 第1回：研究テーマの設定と研究方法① 第2回：研究テーマの設定と研究方法② 第3回：舞踊による感受性トレーニング：ソーラン節① 第4回：舞踊による感受性トレーニング：ソーラン節② 第5回：舞踊による感受性トレーニング：多摩川①手拭 第6回：舞踊による感受性トレーニング：多摩川②手拭 第7回：研究の進捗状況の報告① 第8回：研究の進捗状況の報告② 第9回：舞踊による感受性トレーニング：多摩川①さらし 第10回：舞踊による感受性トレーニング：多摩川②さらし 第11回：舞踊による感受性トレーニングのまとめ ① 第12回：舞踊による感受性トレーニングのまとめ ② 第13回：研究成果のまとめ① 第14回：研究成果のまとめ② 第15回：全体のまとめ：感受性トレーニングと研究成果の発表		【授業時間外の学習】 授業時間外で調査を行うこともあり、課題意識を持って、日頃から課題に取り組む姿勢を大切にする。 (授業毎に2時間程度) 授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	

【授業の方法】 演習、発表、文献研究、アクティブ・ラーニング（プレゼンテーション・ディスカッション）。小レポートなどを基に討議し、講評する。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（20％）、レポート（10％）、中間発表（20％）、研究発表（50％）、リアクション・ペーパー（「まとめと振り返り」用紙）からルーブリック評価を実施。	
【履修上の注意】 ・課題意識を持って、自分から積極的に調査を行う。 ・浴衣持参が望ましい。	
実務経験の有無：有	実務経験： スクールカウンセラー、臨床心理士 日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー
【実務経験を生かした教育内容】 保育者や保護者への相談経験を活かし、印象形成や感受性の重要性について考えさせる授業を展開する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 運動遊び絵本の教育的意義を理解し、現代社会における子どもの発達支援との関連性を説明することができる。 2. 子どもの発達段階に応じた運動遊びの特性を理解し、安全面に配慮した適切な運動内容を選択・構成することができる。 3. 既存の運動遊び絵本を教育的観点から分析し、その特徴や効果について考察することができる。 4. 子どもの興味・関心を引き出し、主体的な運動意欲を高める運動遊び絵本を、実践的な教材として制作することができる。			
【授業の概要】 本授業では、乳幼児期における運動遊び絵本の教育的意義を理解し、実践的な教材制作力を養うことを目的とする。近年、子どもの運動機会の減少が指摘される中、運動遊び絵本は、楽しみながら自然に体を動かすきっかけを提供し、子どもの全人的な発達を支援する重要な教材であるといえる。授業では、子どもの発達段階に応じた運動遊びの特性や、安全面への配慮事項について理解を深めるとともに、既存の運動遊び絵本の分析を通じて効果的な教材設計の方法を学ぶ。これらの学びを基盤として、子どもの興味・関心を引き出し、主体的な運動意欲を高める運動遊び絵本の制作に取り組む。制作過程では、絵本の構成、イラストレーション、運動の順序性、安全性など、多角的な視点から検討を重ね、保育・教育現場で実践可能な質の高い教材となることを目指す。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション（授業の目的と概要、運動遊び絵本の意義と現代的役割の理解の説明） 第2回：運動遊び絵本の教育的意義と分析 第3回：発達段階に応じた運動遊びの考案 第4回：ストーリー構成①：基本的な物語構成 第5回：ストーリー構成②：運動の順序性の構成 第6回：イラストレーション①：基礎技法		【授業時間外の学習】 (毎回60～90分) 事前学習 ・ 次回の授業内容に関する参考資料の収集と読解 ・ 運動遊び絵本の事例研究 ・ 必要な画材や制作材料の準備 事後学習	

第7回：運動遊び絵本のイラストレーション②：キャラクター 第8回：運動遊び絵本のイラストレーション③：動きの表現 第9回：運動遊び絵本のイラストレーション④：場面構成 第10回：運動遊び絵本のイラストレーション⑤：色彩 第11回：運動遊び絵本のイラストレーション⑥：仕上げ技法 第12回：運動遊び絵本のイラストレーション⑦：作品完成 第13回：絵本を活用した実際の指導場面のシミュレーション① 第14回：絵本を活用した実際の指導場面のシミュレーション② 第15回：絵本を活用した実際の指導場面のシミュレーション③ 定期試験：なし	・授業で学んだ技法の練習 ・作品制作の継続 ・指導案の作成と見直し 制作活動 ・イラストレーションの下書きと仕上げ ・ストーリーの構成と見直し ・作品の改善点の反映
【授業の方法】 授業は演習、ディスカッション、制作、発表を中心に進め、それぞれの活動に対してフィードバックを行う。	
【テキスト】 特に指定しない。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 評価は、制作過程での取り組み（30%）、完成した運動遊び絵本（40%）、指導場面のシミュレーション（30%）の3項目について、ルーブリック評価表に基づいて行う。	
【履修上の注意】 ・子どもの身体や遊び、そして現代社会における諸問題について関心を持ち、自主的に授業に臨むこと。 ・授業時間外でも制作の進捗状況に応じて作業を行うこと。 ・完成した運動遊び絵本は指定された期日までに提出すること。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：瀬戸奏 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 音楽が子どもに与える影響・効果を理解し、保育者として場面に合った活用方法を選択することができる。 2. 音楽を通して表現するための演奏法・歌唱法を身につけることができる。 3. コンサートの企画を通し、発想力とコミュニケーション能力を養うことができる。			
【授業の概要】 子どもたちが豊かな音楽に触れることができるよう、まずは保育者自身が感性を磨き、技術を身につける。また、コンサート形式で研究発表を行うことで、他者の前で表現をする力を養う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供「豊かな表現力を育む音楽活動」 第3回：音楽と楽しむパネルシアター① 第4回：音楽と楽しむパネルシアター② 第5回：絵描き歌① 第6回：絵描き歌② 第7回：歌唱活動① 第8回：歌唱活動② 第9回：楽器アンサンブル① 第10回：楽器アンサンブル② 第11回：季節や行事に合わせたコンサート企画 第12回：季節や行事に合わせたコンサート練習① 第13回：季節や行事に合わせたコンサート練習② 第14回：季節や行事に合わせたコンサート発表 第15回：「豊かな表現力を育む音楽活動」まとめ 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・パネルシアターの制作、練習 ・絵描き歌の練習 ・曲の音取り、アンサンブル練習 ・コンサートに向けての企画 ・ポスターの制作 ・プログラムの練習 ・コンサートの振り返り ・音楽表現についてまとめる	

【授業の方法】 教員から話題提供を行い展開していく。そして、学生が中心のディスカッションを通してテーマを設定、コンサート形式で発表を行う。発表後に自己評価表を提出、教員からのコメントを入れてフィードバックする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業への参画度・演奏に対しての練習と発表に取り組む姿勢（50%）、課題プリント（20%）、コンサート発表（30%）。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心をもち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 児童虐待の現状や対応策等について理解し、実践できる。 2. 「オレンジリボン運動」の啓発等に関する研究や活動を行うことで、将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。			
【授業の概要】 ゼミナールⅠや保育実習等を通じた自らの体験・経験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：学習の進め方について、体験授業について 第2回：体験授業（現場実践①）の企画立案（1） 第3回：体験授業（現場実践①）の企画立案（2） 第4回：体験授業（現場実践①）のリハーサル 第5回：体験授業（現場実践②）の企画立案（1） 第6回：体験授業（現場実践②）の企画立案（2） 第7回：体験授業（現場実践②）のリハーサル 第8回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（1） 第9回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（2） 第10回：現場実践①（ごか子育て応援フェスタ参加）（2） 第11回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（1） 第12回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（2） 第13回：現場実践②（羽生市ボランティアまつり参加）（3） 第14回：まとめ（レポート作成） 第15回：まとめ（レポート発表） 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 1. 児童虐待防止に関する情報を集める。（2時間） 2. 児童虐待やオレンジリボン運動の情報を集め、その対応方法等について理解を深める。（2時間） 3. 文献資料等を参考に、児童虐待防止の歴史的背景やオレンジリボン運動・子ども食堂等についても学習をする。（2時間） すべてにおいて調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。 4. 企画した内容をリハーサルすることで本番に備える（4時間）	

【授業の方法】 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。調査・研究を進める中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 授業内で必要な書籍を紹介していく。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜プリント等配布する（過去のオレンジリボン活動等の報告書や子ども食堂に関する資料等）。	
【学生に対する評価】 調査・研究活動結果のプレゼンテーション（50%）、レポート課題（50%）。 ＊評価には、ルーブリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 ・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるようになることを目標とする。 ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。 ・体験授業への参加が必須となる。 （昨年実績：ごか子育て応援フェスタ、羽生市ボランティアまつりなどに参加。子どもや保護者との関わりを体験）	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：塚越亜希子 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養、総合的な判断力、倫理観等を習得することができる。 2. 自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、その課題への対応として求められるものは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させることができる。			
【授業の概要】 実習およびゼミナールⅠでの経験をもとに、保育者として勤務する前に身につけておきたいことをテーマとし、調査・研究、演習等を行い、保育の実践に必要な知識・技術を習得する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：これまでの学びを振り返り、今後の課題・研究テーマの決定 第3回：調査・研究 第4回：調査・研究 第5回：調査・研究 第6回：調査・研究 第7回：中間報告 第8回：ゼミ間交流 第9回：制作・実践演習 第10回：制作・実践演習 第11回：調査・研究 第12回：発表準備 第13回：発表準備 第14回：ゼミ内発表会		【授業時間外の学習】 ・各自保育に関する課題を見つけ、研究テーマを決定する。 ・研究活動は、授業外での調査研究が必要であるため、参考となる資料や文献を読み、計画的に調査・研究を進めること。 ・模擬発表を行うなど、発表に向けて準備を進める。 ・授業の事前学習・事後学習に1～2時間程度を要する。	

第15回：全体のまとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 実習などの経験やこれまでの学習の振り返りから各自テーマを設定し、調査・研究を進める。ディスカッション、演習、グループワーク等を行う中で学びを深める。授業のまとめ・振り返りプリントにコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度(30%)、レポート(20%)、中間発表(20%)、研究発表(30%)。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 事前準備をしっかりと行い、積極的に調査・研究を進めること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得等について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身に付けられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの音楽表現を基に、様々な領域との繋がりを考えることができる。 2. 保育者としての専門的な知識や技術を総合的に身につけることができる。 3. 実習等での体験をもとに自らの課題を明確にし、知識を深め具体的に考察し、保育に反映することができる。			
【授業の概要】 前期での子どもの音楽的表現の学びを基に、各自の研究テーマの探究をより深めていく。その中で、自らの保育観を持ち、協働する保育の場において表現する大切さも学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供①遊びという実体験の重要性 第3回：調査・研究・実践活動① 第4回：調査・研究・実践活動② 第5回：調査・研究・実践活動③ 第6回：調査・研究・実践活動④ 第7回：研究成果の中間発表 第8回：話題提供③子どもが主体的に物事に関わることについて 第9回：調査・研究・実践活動⑤ 第10回：調査・研究・実践活動⑥ 第11回：調査・研究・実践活動⑦ 第12回：発表準備① 第13回：発表準備② 第14回：研究発表とディスカッション 第15回：全体のまとめ 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の予習・復習含めた自己学習を要する。 ・各自の研究テーマについて図書館、インターネットなどを利用しながら情報収集をする。 ・子どもの音楽的表現について考察し、自らの考えを持つ。 ・自分の考えを伝える工夫をすること。(視覚的理解、言葉の選び方、ストーリー性など) ・研究発表の計画、準備。	

【授業の方法】 これまでの学びや実習の経験等を基に各自テーマを設定した上で調査・研究を進める。グループワーク、プレゼンテーション等それぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度等（40％）、レポート・制作（30％）、研究発表（30％）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 毎週の課題にしっかりと取り組み、次回のゼミ内で発表できるよう、事前の準備、事後のまとめを確実にすること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅡ 英語表記：SeminarⅡ ナンバリング：2332		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山田耕平 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育・教育現場の現状と課題について理解し、研究テーマを設定することができる。 2. テーマに沿って、主体的に研究を行い、課題を追求していくことができる。 3. 困っている幼児・保護者へのかかわり方や相談支援について理解できる。			
【授業の概要】 困っている幼児・保護者の実態とかかわり方や相談支援の方法等について理解するための話題提供やディスカッションを行う。 また、各自が設定したテーマに沿った調査研究をし、研究発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供① 幼児期の問題や課題の現状 第3回：話題提供② 幼児・保護者への教育相談の実際 第4回：各自の研究テーマ設定・資料収集① 第5回：各自の研究テーマ設定・資料収集② 第6回：研究テーマ発表 第7回：調査研究① 第8回：調査研究② 第9回：調査研究③ 第10回：研究中間発表 第11回：調査研究④ 第12回：調査研究⑤ 第13回：発表準備① 第14回：発表準備② 第15回：全体のまとめ 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切にする。 (授業毎に2時間程度) 受講にあたっては、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。 保育・教育現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実態についての理解を深めておくことが望ましい。 (日数は適宜)	

【授業の方法】 演習、発表、文献研究、ディスカッション。 授業感想や質問に対しては随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（50％）、授業内課題・研究発表（50％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行う。	
実務経験の有無：有	実務経験：臨床心理士・公認心理師・精神科クリニック・生活困窮者支援 ・学生相談・幼稚園巡回相談 等
【実務経験を生かした教育内容】 切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。	